

科研バックエンド問題研究会
高レベル放射性廃棄物(HLW)処理・処分施設の社会的受容性に関する研究
第 11 回研究会

高レベル放射性廃棄物地層処分の社会的受容に向けた
取り組み：欧州を例として

主催：早稲田大学レジリエンス研究所 (WRRI)

<http://www.waseda.jp/prj-matsuoka311/>

後援：早稲田大学アジア太平洋研究センター (WIAPS)、早稲田大学環境総合研究センター (WERI)

1. 趣旨

本研究会は、日本の高レベル放射性廃棄物 (HLW) の最終処分施設の社会的受容性をテーマとして、幌延や瑞浪の深地層研究施設などの国内事例の調査および世界で最初の正式な地層処分施設の建設着工をしたフィンランドや地層処分と可逆性の先進的な議論を展開しているフランスなどの海外事例の調査を実施してきた。特に、フランスの地層処分政策の調査では、地層処分と可逆性に関する国民的議論が 2 度にわたり実施され、地層処分政策への将来世代の参加の権利保障という大変興味深い論点が提起されている。「現在世代だけで HLW の最終処分方法を決めない」との議論は、フランス流の現在世代の責任のとり方であるとも考えられる。

これらを踏まえ、本研究会では、欧州の地層処分政策に詳しい国立研究開発法人・日本原子力研究開発機構 (JAEA)・幌延深地層研究センターの大澤英昭副所長をお招きして、フランス・イギリス・スイスなどの欧州 HLW 管理政策に関するご講演を頂き、研究会メンバーなどとの討論を通じて、HLW 管理政策に関する欧州の動向や日本への教訓について考えたい。

なお、本研究会は科学研究費補助金・基盤研究 (B) (16H03010)「高レベル放射性廃棄物 (HLW) 処理・処分施設の社会的受容性に関する研究」(研究代表者：早稲田大学教授・松岡俊二、平成 28 年度～平成 30 年度) に基づくものである。

2. 日時・会場

日時：2018 年 7 月 25 日 (水) 18:00～20:00

会場：早稲田大学 (早稲田キャンパス) 19 号館 7 階 713 会議室

<https://www.waseda.jp/top/access/waseda-campus>

3. 内容

司会：松岡 俊二 (早稲田大学アジア太平洋研究科・教授)

報告：大澤 英昭 (日本原子力研究開発機構・幌延深地層研究センター・副所長)

「高レベル放射性廃棄物地層処分の社会的受容に向けた取り組み：欧州を例として」(仮)

討論：勝田 正文 (早稲田大学環境エネルギー研究科・教授)

黒川 哲志 (早稲田大学社会科学研究科・教授)

4. 申込先：会場設定などの関係上、参加を希望される方はメールで事前連絡ください。

【宛先】 jyuten-fukkou@list.waseda.jp

【件名】 7/25 研究会参加申込

【内容】 1. 氏名 (フリガナ) 2. ご所属 3. メールアドレス

5. 連絡先

早稲田大学レジリエンス研究所 (WRRI)

E-mail: jyuten-fukkou@list.waseda.jp